

広島大学総合博物館 Hiroshima University Museum

いろんな発見を体験しよう！

発見の小径 探検マップ®

ようこそ、広島大学へ！広島大学総合博物館は、キャンパスをまるごと展示するエコ・ミュージアムです。キャンパスには、博物館本館のほか、「サテライト館」、「ミニ展示スペース」、キャンパスを探索する「発見の小径」などがあります。エコ・ミュージアムを巡りながら環境とのつきあい方を考えてみませんか？

❶ 総合博物館



開　館/
火～土(10:00～17:00)
（入館16:30まで）

休館日/
日、月、祝、年末年始

発見の小径は終日オープン（散策自由）

❻ 中央図書館サテライト館

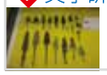


開館／授業期
月～金曜日　8:30～22:00
土・日曜日 10:00～20:00
開館／休業期
月～金曜日　8:30～17:00



※その他閉館日：
図書館のホームページをご覧ください。

❼ 文学研究科サテライト館





開館：月～金曜日
9:00～17:00
（休館日：土、日、祝）

⓬ 理学研究科展示スペース





開館：月～金曜日
9:00～17:00
（休館日：土、日、祝）

⓳ 生物圏科学研究科展示スペース





開館：月～金曜日
9:00～17:00
（休館日：土、日、祝）

㉜ 埋蔵文化財調査室サテライト館





開館：月～金曜日
10:00～17:00
（休館日：土、日、祝）

❸ サタケメモリアルホール
❺ 被爆桜･フェニックス(広島大学のシンボル)
❽ 移設古墳群と文学の小庭
❿ サタケ広場
⓭ ニュートンのりんご･メンデルのぶどう
⓮ 主乾環先生像
⓯ 野鳥の観察所
⓱ コミュニケーションガレリア
⓲ フェニックス工房
㉑ 思案橋
㉒ スペイン広場
㉔ 石のモニュメント(地殻･シルリアの海)
㉕ 鴻の巣南遺跡(弥生時代の竪穴式住居跡)
㉗ 学生プラザ
㉘ 地面の化石!?(広島花崗岩と西条層の不整合面)
㉙ 鴻の巣遺跡(弥生時代の住居跡)
㉚ 鴻の巣遺跡(県南で一番古い集落跡)
㉛ 文書館



❹ ラ・ボエーム
（学士会館1階）
営業時間/11:00～15:0
（ラストオーダー14:30
定休日/土、日、祝
予約･お問い合わせ
TEL&FAX082-423-2224(直通)

❾ ラ・プラス
（マーメイドカフェ）
営業時間/
授業期
月～金　8:00～20:0
土曜日 10:00～18:0
休業期
月～土 10:00～18:0
定休日/日、祝

❷ 北２福利会館
❿ 東福利会館
㉓ 西２福利会館
⓫ 北１福利会館
⓴ 大学会館
㉖ 西１福利会館
（コンビニエンスストア）

ふれあいビオトープゾーン

池と周辺の湿地、そして隣接するアカマツ林には、昔ながらの里山環境が維持されています。下草を刈ることで維持される、明るい林床は、今では稀少とされる植物や、昆虫の大切な住みかになっています。



ぶどう池ゾーン

ぶどう池は、当初、周囲のぶどう畑に水を供給するための池として作られたため、この名がつきました。現在は、安定した水質から、水中では稀少な水草類が生育し、冬には多くの水鳥が飛来し、羽を休める、貴重な環境が保たれています。



渓流と湿地ゾーン(生態実験園)

この谷間では、下草刈りや耕作などの管理を行うことで、本来の里山環境を維持し、そこに生息する生きものたちを守っています。また、西条盆地の貴重な植物を、収集・展示することで、遺伝資源の保全と啓蒙を試みています。





『発見の小径』とは？

広大には“自然”という、すばらしいお宝があります。それは、大学が出来る前から、地域の人たちが親しみ育んできた大切な里山環境です。まるで屋根のない博物館のように、そこではつねに新しい発見があります。そして時間の流れも“自然”に還る、憩いの場所にもなるでしょう。この径を歩けば、あなたも『何かを発見する』喜びに出会えるはずです。それでは、いざ！発見の旅へ!!





アメリカフウ

北米原産のマンサク科の高木。樹形が整い、紅葉が美しい。工学部の並木路は秋の風物詩。



イシモチソウ

草丈 20cm の食虫植物。葉の粘液には虫の他に小石も付着するためこの名がついた。広島県絶滅危惧Ⅱ類。



オグラノフサモ

ため池の水中に生える水草。夏には水面から花茎を伸ばして小さな花を咲かせる。広島県準絶滅危惧。



キキョウ

秋の七草のひとつ。日当たりがよい草原に咲く美しい野草。里山が放置され自生地が減少。広島県準絶滅危惧。



サイジョウコウホネ

光沢がある葉を水面に広げ、黄色い花を長期間咲かせる。広大の研究者が発見した西条盆地特有の雑種植物。広島県絶滅危惧Ⅱ類。



サギソウ

湿地に自生する美しいラン。花は白鷺が翼を広げた姿に似る。環境変化や乱獲により減少。広島県絶滅危惧Ⅱ類。



ササユリ

明るい里山に自生し、笹に似た葉をもつ。香りの良い美しい花を咲かせ人気が高いが、成長が遅く栽培は困難。

サワギキョウ



湿地に自生する大型の植物。細い茎に青紫色の花をたくさん咲かせる。よく見ると花の形が面白い。





ニオイタチツボスミレ

アカマツ林の中で咲くスミレ。この仲間には似た種が多いが、なかでも本種は花色が濃く、花弁が丸く、香りがある。



ヒガンバナ

農耕文化とともに大陸から伝わった植物。田の畦などに群生して咲き、鮮明な朱赤色は秋の風物詩。



ヒツジグサ

ため池に生える野生のスイレン。花が羊の刻（午後 2 時）に開くとされるが、実際には日が当たると咲く。



ヒメタヌキモ

水中に生える小型の水草。小さな捕虫嚢を作りミジンコなどを捕らえる。花は淡黄色で水上に咲く。広島県絶滅危惧Ⅱ類。



モウセンゴケ

湿地に生え、葉の腺毛から粘液を出して虫を捕らえる。日当たりが良いと赤く色づき緋毛氈（フェルト）のように見える。



リンドウ

やや湿った明るい草原に咲き、晩秋を彩る。日に当たる時だけ花弁が開く。根は漢方薬として利用される。

アカハライモリ



日本の固有種で、ニホンイモリとも呼ばれる。池、水田、湿地などに多い。お腹の色が赤いことからこの名がある。



ジムグリ

主に森林に生息。ネズミなどの小型ほ乳類を捕食。地面によく潜る習性からこの名がつけられた。



トノサマガエル

低地から山地の水田や畑、草むらに生息。姿が殿様のように悠然としていることからこの名がある。広島県準絶滅危惧。



ニホンアカガエル

平地や丘陵地の水田近くの草むらや水辺に生息。産卵期は、1～3 月。宅地化により個体数が減少傾向。



オオコオイムシ

水生のカメムシの仲間。山間部の湿地や池に生息。5～6 月にメスがオスの背中に産卵することからこの名がある。



ヒメゲンゴロウ

全長10～12mm。流れの緩やかな池や沼に多い小型のゲンゴロウ。昆虫や小魚などを捕食する。



ヒメトビケラ

トビケラ目の水生昆虫。成虫は、蛾に似るが長い触角を持つ。幼虫は、止水にたまった砂の表面に繊維状のカプセル(巣)を作る。



ギフチョウ

幼虫は、サンヨウアオイという植物を好む。成虫は春に出現。近年、里山の放棄などで個体数の減少が著しい。広島県準絶滅危惧。



ゲンジボタル

幼虫時は水中生活で、カワニナを好む（肉食）。成虫期は 5 月終わり～7 月初め。ホタル類で最も明るい光を放つ。



ハッチョウトンボ

日本で最小のトンボ（体長 18mm ほど）。オスは赤く、メスは黄色。湿地、湿原に生息。広島県絶滅危惧Ⅱ類。



ヘイケボタル

ゲンジボタルより小型。ゲンジボタルが渓流に生息しているのに対し、本種は、水田などの止水を好む。



ルリシジミ

全長 20mm ほどの蝶で、オスはルリ色。メスは翅の縁が黒い。蛹で越冬し、3～11 月に草原などで全国的に見られる。



カワムツ

河川の中流域に生息する普通種。雑食性。海のムツと区別するためこの名がつけられた。



ドンコ

淡水ハゼ類としては大型種。夜行性で生きたものしか食べない。河川工事などで、生息数が減少傾向。広島県準絶滅危惧。



メダカ

日本に生息する最も小さな淡水魚。目が大きく頭より出ていることからこの名がある。広島県絶滅危惧Ⅰ類。

アオサギ（留鳥）と鳥居



日本最大のサギ。留鳥で日本全国に分布。100 羽を超す群れを作ることも。ぶどう池に浮かぶ鳥居は、池の守り神！?



コガモ（冬鳥）

日本へは冬鳥として渡来。湖沼、池、川などで越冬。中国山地から沿岸部まで広い範囲で観察される。



ジョウビタキ（冬鳥）

人里周辺で頻繁に観察され、秋本番、冬の訪れを告げる野鳥の代表。翼の白斑からモンツキの名も。



ヒドリガモ（冬鳥）

本州以南の湖沼、河川、内湾などに群れをつくって渡来。県内で越冬するカモ類の中では最も数が多い。



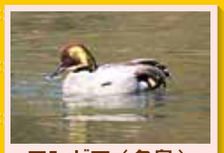
ビンズイ（冬鳥）

県内では、冬鳥として普通種。山林や草原の地面をチョコチョコと歩く姿はとてもユニーク。



メジロ（留鳥）

周年見られる普通種。鳴き声は「長兵衛、忠兵衛、長忠兵衛」と聞こえる。目の周辺が白くこの名がある。



ヨシガモ（冬鳥）

全国の河口、河川、湖沼に渡来するが、数は多くない。県内でも観察例は少なく、東広島は貴重な渡来地。



ルリビタキ（冬鳥）

山麓や渓流沿いの林に渡来。雄は美しいルリ色。尾羽のみルリ色が見られるもの（写真）は雌か若い雄。

季節の見どころカレンダー

君はどれだけ見つけられるかな？

《注意とお願い》

- ●道は舗装されていません。歩く際には十分に気をつけて歩いてください。
- ●動植物の採取・持ち帰りは禁止です。理由がある場合には、博物館へお問い合せください。
- ●研究で、資料の採取や調査場所を設ける場合には、ご連絡ください。
- ●アメリカザリガニ・ブラックバスなどの外来種や、他の地域の生物は持ち込まないでください。

※事故等の責任はいっさい負いかねますので、各自で十分に注意してください。

連絡先・問合先

広島大学総合博物館 Hiroshima University Museum

〒739-8524 東広島市鏡山 1－1－1

TEL：082-424-4212 MAIL：museum@hiroshima-u.ac.jp

H P：http://home.hiroshima-u.ac.jp/museum/

印刷：株式会社こころ広告社 Illustrated by Koba＆Kura

■写真協力

青山 幹男（技術センター）、井鷺 裕司（総合科学研究科、※現在京都大学）、宇都 武司（技術センター）、河合 幸一郎（生物圏科学研究科）、柴田 恭宏（技術センター）、清水 則雄（総合博物館）、中坪 孝之（生物圏科学研究科）、橋本 知佳（総合博物館）、藤原 好恒（理学研究科）

※所属と肩書きは作成当時のものです。

■参考文献

『改訂・広島県の絶滅のおそれのある野生生物 2003』（広島県）

『ひろしまの野鳥図鑑 増補改訂版』（中国新聞社）

『日本の両生爬虫類』（平凡社）

『日本の野生植物』（平凡社）

協力：生態実験園

29.10, 10000